

新・奥の細道

山形西ルート

⑧

橋下街道のみち

Naragekaido-no-michi



山形県

周辺のアクセスガイド

上山市橋下までは、山形新幹線J11かみのやま温泉駅まで東京から2時間40分。山形交通上山営業所（駅前）から橋下まではバスで20分。山形空港よりタクシーで50分。



観光・宿泊のお問合せ	上山市観光協会 〒999-31 上山市南町8-21	☎0236-72-0839
	JRかみのやま温泉駅観光案内所 〒999-31 上山市矢来1-1-1	☎0236-72-5703
交通のお問合せ	JRかみのやま温泉駅 〒999-31 上山市矢来1-1-1	☎0236-72-6763
	JRかみのやま温泉駅観光案内所 〒999-31 上山市矢来1-1-1	☎0236-72-5703
コースのお問合せ	上山市観光物産課 〒999-31 上山市河崎1-1-10	☎0236-72-1111
	山形県自然保護課 〒990-70 山形市松波2-8-1	☎0236-30-2204

表紙の写真は、下町めがね橋

GUIDE

みどころ案内

羽州街道・橋下宿

Ushukaido・Naragejuku

『秋惜しむ橋下の宿やどじょう汁』…昭和44年の秋、宿場風景取材のために橋下を訪れた向井潤吉氏が詠んだ俳句である。

橋下宿のほぼ中ほどの山際に面した小高い台地に、宝暦3年(1753)に建立された浄土真宗浄休寺がある。一段高い鐘樓のところから、下町へ通ずる上町風景を眺めて、向井氏は“橋下宿は、ゆるい勾配の道をはさんで、両側に続く家は、頑なに寒冷の風土に抵抗するように、また諦めたようにも受けとれる静かな姿勢で並んでいる”と表現した。

滝沢屋の座敷に切られた大きないりを囲み、どじょう汁で酒をくみながら、遠来の画家は、橋下宿のいく秋の情緒をこのように描きこんだのである。

橋下宿で下町は宿の中心であった。ここには本陣・問屋を勤めた「塩屋」をはじめ、脇本陣、準本陣に相当する「庄内屋」「秋田屋」とともに「滝沢屋」が街道の東側に並んでいた。

新町は宝暦7年(1757)の橋下大洪水の後で新たに割り出された町並みである。

以後、幕末まで基本的には構成に変化はなく、コの字形に曲折していたが、明治13年(1880)石造の新橋、さらに同15年に観橋が架けられ、その翌年には、上町から新町へ直通する新道が開き、町形もコの字からロの字形に変わった。

そのため、下町、横町は、新しい道から外れた存在となり、閑静な町並みとして遺され、最近まで古民家造構も比較的多かった。

滝沢屋に残っている天保年間の「旅籠取覚帳」によれば、出羽三山詣での行者、その他、各藩の家中や商人らの宿泊した記録もある。

今、浄休寺の境内から見下ろす街道筋の家屋は、すっかり近代風に変わっているが、橋下地区内をそぞろ歩き、昔のやかぶきの屋根を見つけたとき、しばらく佇立して、昔の橋下宿をしのんでみたくするのである……。



橋下宿全景



浄休寺



庄内屋

橋下は藩政時代、青森・秋田・山形など東北の諸大名13藩の参勤交代の宿駅として、また、出羽三山参りの町人などで賑わい、本陣、問屋、旅籠屋、茶屋などを有する、羽州街道交通の要衝であった。

橋下は、金山峠を越え出羽国(現山形県)に入って最初に本陣を持つ宿場で、宿頭から宿尻にかけて、新町、下町、横町、上町と続く四町から成り、今なお江戸の昔を彷彿とさせる歴史街道である。

脇本陣「滝沢屋」

Wakihonjin "Takizawayu"



滝沢屋

丹野家は江戸時代に庄屋を勤めた由緒ある家柄で、屋号を「滝沢屋」と称し、「滝沢諸白」という銘酒の造り酒屋でもあり、脇本陣、また旅籠屋としても活躍し、大名や上級武士の宿泊、休息に利用され、その関根が遺されている。

建築年代は明らかではないが、宝暦7年(1757)橋下の大水害以後の建築で、230年余を経過した建築であると推測されている。

今に残る同地の「庄内屋」とともに、下町における本格的な宿泊施設であり、保存状態も良好で、貴重な遺構建造物として平成2年に上山市の有形文化財に指定された。

- ◆利用案内/☎0236-74-3125
- ◆開館時間/am9:00~pm4:45
- ◆休館日/毎週月曜日及び12/28~1/3
- ◆入館料

区分	大人	学生	小人
一般	200円	150円	50円
団体	150円	100円	40円

※団体は、20名以上

新町めがね橋(新橋) Shinmachi meganebashi "Shinbashi" 下町めがね橋(観橋) Shitamachi meganebashi "Nozokibashi"

両めがね橋とも、羽州街道が新町から下町に通ずる間を横切る金山川に架けられたアーチ式の石橋である。

◎新橋

明治13年に竣工。

橋長14.7m、幅員4.4m、アーチの高さ約4.4m、川床部の径約12mで石材は宮川上流の大門石(凝灰岩)を用いた。

総工費千余円の内300円は県の下附金、残り700円余は、橋銭を取り償却したユニークな橋である。

◎観橋

明治15年に竣工。

橋長10.8m、幅員3.5m、アーチの高さ3.83m、川床部の径8.44mで、石材は新橋と同様の大門石を用いており、工事費は橋下で負担したという。

現在は欄干の一部が補修されたほか、ほぼ原形を保っている。

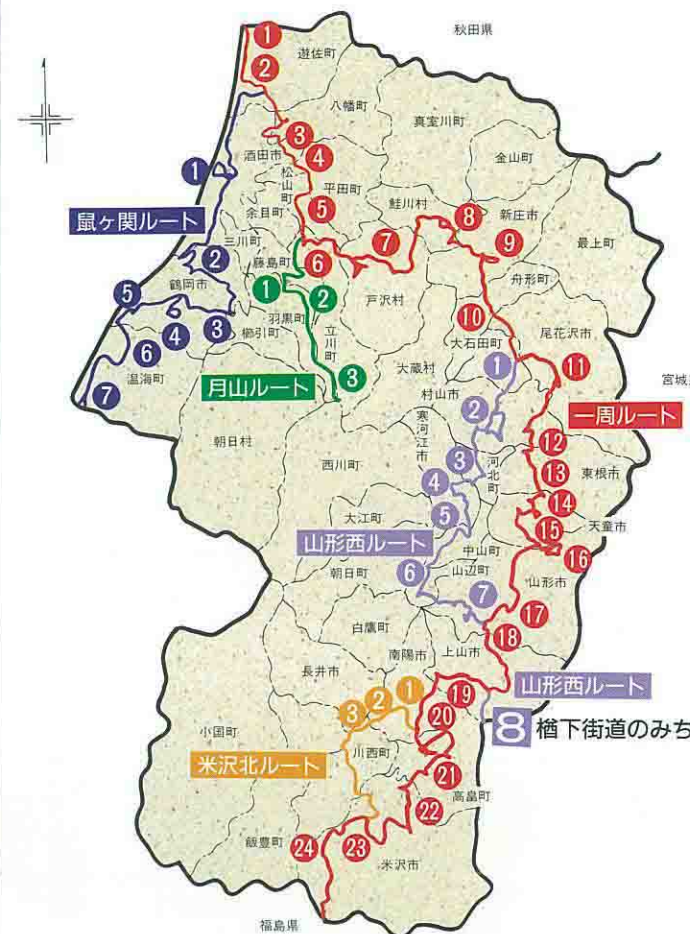


下町めがね橋

新町めがね橋

YAMAGATA MAP

東北自然歩道(新・奥の細道)ルート図



"新・奥の細道"とは

自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特色ある文化や歴史と親しむためのみちです。

"新・奥の細道"は正式には東北自然歩道といいます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経由して福島県郡山に至るルートになっています。

また、この"新・奥の細道"は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・鼠ヶ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせた総延長は45コースで792kmとなっています。

この"新・奥の細道"を楽しむために

1. コースのみどころ、地形、距離をあらかじめ調べて、余裕のある日程を組みましょう。
 2. 歩きやすい服装で、荷物は最小限にとどめましょう。
 3. 天気予報に注意して、天気のいい日を選んでゆっくり歩きましょう。
- この3つを守り、友人と、家族と、さあ出発!

おねがい

- ・ゴミは捨てないで持ち帰しましょう。
 - ・たばこの投げ捨てや、山火事には十分注意しましょう。
 - ・案内板や休憩所はみんなのもので、大切にしましょう。
 - ・美しい自然は、人間だけのものではありません。草花や虫たち、小鳥たちのためにも自然を汚さないようにしましょう。
- そして、美しい自然を後世まで伝えていきましょう。

このみちは、年金積立金元元融資を受けてつくられました。